

大まくりの初優勝

4 ホールのプレーオフ制す

通算2オーバー 290

大阪学院大1年・後藤大翔(阿蘇大津)



「まさか」からの大逆転だ。最終日、後藤は首位・芹澤とは10打差、12位タイで最終組から5組前にスタートした。ほとんど優勝圏外にいたのだが、第4ラウンドを5バーディー、1ボギーの若松GCでのアマチュアのコースレコード「68」をマークして通算2オーバー、290でクラブハウスリーダーとして待機。この間、大会をリードしていた芹澤が左手首痛で棄権し、上位陣が風に悩まされてインで崩れて行く。結局、半信半疑で待っていた

後藤に告げられたのは田崎とのプレーオフだった。

プレーオフは18番→1番→9番の繰り返しだが、フォローの風が吹く最初の18番ロング(514ヤード)でいきなりピンチを迎える。緊張のせい、第1打がいわゆる「ど引っ掛け」で150ヤードしか飛ばない。第3打はピンまで235ヤード。このピンチをパーでしのいで2、3ホール目もお互いパーで譲らない。そして迎えた2度目の18番。今度は残り210ヤードの第2打を6Iで見事ピン左5mに2オンしてバーディーを奪い、パーの田崎に競り勝った。

「今年目標は九アマの優勝でした。優勝には届かないと思い、(最終ラウンドは)自分のプレーをしようと。待っていた時、プレーオフは現実味がなく、3割程度はあるかな、と思っていました」。転がり込んできたプレーオフではあるが、後藤にはそれをものにする力があった。これまでプレーオフは1勝1敗で、勝利が1つ先行した。

ゴルフは大津小(熊本県大津町)1年から父親の影響で始める。大津北中3年の日本ジュニアに出場した際、大阪学院大高から誘いの声がかかって入学。現在は大阪学院大1年で経営学部経営学科に籍を置く。身長168cm、体重77kg。ドライバーの平均飛距離は270ヤード。今年1月から3カ月間で毎日5食の食事を摂り、「強い球を打つために」体重を10kg増やした。最終日は5m以上の風が吹いたが、食トレの効果が表れたのかもしれない。

初の九州王者となり、初の日本アマにチャレンジする。「しっかりとチャンピオンらしいプレーをしたい。緊張はすると思うけど、得意のアプローチとパターで耐えるゴルフをして上位に食い込みたい」。大会は6月29日から4日間、大和CC西コース(茨城)で開催されるが、第3日となる7月1日は後藤の19回目の誕生日。自らのプレーで当地での楽しいバースデーを祝いたい。



福岡・沖学園高3年の田崎春樹(大村湾)はプレーオフ4ホール目で力尽きた。身長179cm、体重98kgで飛距離には自信を持つ。飛ばし屋有利と言われた18番ロングだが、プレーオフは2度とも第1打を右に曲げて2オンはできなかった。ただ、その18番で第4ラウンドでは見せ場を作った。第2打をピン右15ヤードのカラーまで運び、そこから58度のウェッジでチップインイーグル。この1打で後藤に並んだのだった。「イーグルで追いついたのは知らなかった。(プレーオフの18番は)風に負けました。ショットが悪い中、上にいけたのは自信になります」と田崎は淡々としていた。日本アマは優勝した後藤同様、今回が初出場となる。

3日目まで2位以下に4打差をつけ、優勝争いのトップに立っていた芹澤慈眼（久住高原）が、左手首痛で無念のリタイアとなった。最終日のスタート前の練習で15球目に3Wでナイスショットをしたところ、同個所に痛みが走ったという。我慢しながらラウンドを重ね、6番まで1バーディー、2ボギー。7番ミドルの第2打を打った後に棄権となった。「構えるだけでも痛くなった。棄権も左手首痛も初めて。人生はうまくいきませんね。朝起きた時は体調も良くて、優勝がいけるかな、と思っていたんですが。悔しいです」と芹澤は唇を噛んだ。第3ラウンドまでは安定したゴルフを展開。初の九州王者に最も近い位置にいたのだが、思わぬアクシデントに見舞われた。



7番ミドルの右サイドには海が広がる

日本的な屋根が落ち着いたムードを醸し出す茶小屋

